



制作：Eプロ（名城大学薬学部病態解析学Ⅰ：片田ひかり、野田幸裕）
薬品作用学（間宮隆吉）
監修：NPO J-DO

令和4年11月19日（土）イオン八事ショッピングセンターでのEプロ活動「名城大学薬学生とご家族と一緒に学ぼう！くすり実験教室」（共催：特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO））

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生に「くすり」や「薬物依存」のことを知ってもらう授業や体験実験を、特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）の協力の下に行っています。10月6日（木）と27日（木）の2回、イオン八事ショッピングセンター（4階G.Gイベントコーナー）にて、一般向けの名城大学 Enjoy Learning プロジェクト（通称：Eプロ）として、「名城大学薬学生と一緒に学ぼう！くすり実験教室」を開催しました。今回は11月19日（土）の休日ということもあり、ご家族を対象として開催しました。

今回もイオン薬局八事店薬局長の山本真一郎先生のご尽力により、同場所（4階G.Gイベントコーナー）にて「名城大学薬学生とご家族と一緒に学ぼう！くすり実験教室」を下記内容で開催しました。ご家族で来られた場合でも速やかに対応できるよう、前回より参加メンバーを増員しました。当日は、ご家族をはじめ、ご夫婦の方まで、延べ35名が来場されました。ご家族での来場者は、「子ども向けにわかりやすい言葉で説明していただいた」、「水以外の飲み物で薬を飲んではいけないことは知っていたが、目で見て体験でき、よく理解できた」など、非常に喜んでおられました。また、目薬の適正使用に関するポスターに対しても「わかりやすく目薬の使い方がまとめられていてよかった」など、好評でした。日常の薬に関する疑問や服用薬については、教員の先生方が丁寧に対応されていました。前回開催時にも来場された方もおられ、地域に根ざした取り組みになっていると実感しました。

イオン八事ショッピングセンターにおける「くすり実験教室」

日時：令和4年11月19日（土）11時00分-15時00分

場所：イオン八事ショッピングセンター（4階G.Gイベントコーナー）

内容：

・「体験実験」

コーナーを4テーブル設置し、5つの実験を体験できるブースを用意しました。Eプロの薬学生（5年生8名、4年生2名）は、実験目的の説明などを行いました。また、来場者からの質問に対応できるよう努め、私たちにとっても貴重な学びとなりました。実験が円滑に進められるよう、鍋島俊隆先生（NPO J-DO 理事長）、名城大学薬学部 野田幸裕教授（NPO J-DO 副理事長）、間宮隆吉准教授（NPO J-DO 理事）には、集客や助言をしていただきました。



<実験項目>

①薬の溶ける工夫（飲みやすさ）

②薬と飲食物との関係（相互作用）

実験 1：コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」を飲むのはなぜ？

実験 2：水がなくても飲める「くすり」があるのを知ってる？

実験 3：シロップの「くすり」と「お茶」を一緒に飲むとどうになってしまうの？

実験 4：「うがいぐすり」でうがいをした後に、

すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの？

実験 5：オレンジジュースで胃痛を和らげる「くすり」を飲むと

どうになってしまうの？